

「東アジアにおける学問の修得に関する研究 ―文字―」を開催

札幌大学大学院文化学研究科附属 ペリフェリア・文化学研究所

大学院文化学研究科附属ペリフェリア・文化学研究所は、地域の方の生涯学習の場として、**10月27日（土）**、公開講座「東アジアにおける学問の修得に関する研究 ―文字―」を開催します。

東アジアにおける多くの国は、中国で生まれた漢字を受容し、独自の文化を作り上げた歴史を有します。しかし、各国の漢字の有り様はさまざまで、漢字を全廃した地域、漢字を極端に制限した地域もあれば、簡略化して使っている地域、あるいは無制限に使用している地域もあります。日本はその中で、漢字の恩恵を被りつつ、日本独自の文字体系を作り上げ、日本文化の基礎を成しています。

本公開講座では、これら「漢字」に焦点を当て、中国、朝鮮半島、日本の漢字文献の分析から明らかとなる漢字字体の変遷や、複数資料の漢字字体を比較し明らかとなる漢字文献の性格について考えていきます。また私たちの生活の中で、現在漢字がどのように受け入れられているか、漢字を取り巻く諸問題についても検討します。参加費は**無料**、事前申し込み**不要**です。

日 時：10月27日（土）13：00～17：00

会 場：キャリアバンクセミナールーム

（札幌市中央区北5条西5丁目5-7 Sapporo55ビル5階）

問合せ先：札幌大学文化学部 渡辺さゆり研究室

TEL. (011)852-9307 E-mail:wata-s@sapporo-u.ac.jp

【プログラム】

13:00～14:30 漢字字体規範データベース（HNG）（北海道大学名誉教授 石塚晴通氏）

漢字字体には、各時代・各地域（国）により標準が存在し、その標準は各時代・各地域（国）により変遷します。

「漢字字体規範データベース」を実際に画像で参照しながら、これらの現象について説明します。

15:00～16:00 「略字・俗字」の生態を探る―生活の中の文字―（国立国語研究所研究員 高田智和氏）

日曜日の「曜」の代わりに日へんに玉と書く文字（日+玉）があります。学校教育では教えられず、辞書にも載っていない文字ですが、日常生活では目にすることがあります。このような「略字・俗字」に関する景観調査や意識調査の結果をもとに、文字の使用場面や使用層、伝承過程について考えます。

16:00～17:00 仮名「ん」の字母「无」について（書家／北海道大学非常勤講師 紅林幸子氏）

かな文字「ん」は、五十音図の格外に置かれ、いろは歌にも含まれていません。現代標準語の音韻としては、撥音の音節にあたるこの文字は、「无」を字母として誕生したと考えられています。大陸における「无」の使用状況を鑑み、和語にはなかった音韻を、どのような経路でかな文字として定着させていったのかを考えます。